

問 238-239 62 歳男性。進行性下行結腸がん手術後、テガフル・ウラシル配合剤を内服していた。その後、脾転移、腹膜播種が認められたため、FOLFIRI（ロイコボリン、5-FU、イリノテカン併用）＋セツキシマブ療法を行うことになった。化学療法実施に先立ち、以下の検査を行った。

KRAS 及び NRAS 遺伝子変異の有無	UGT1A1 遺伝子多型の有無
エクソン 2 (コドン 12, 13)	UGT1A1*6
エクソン 3 (コドン 59, 61)	UGT1A1*28
エクソン 4 (コドン 117, 146)	

その結果、①KRAS のエクソン 2 (コドン 12, 13) の変異のホモ接合型及び②UGT1A1\*28 のホモ接合型であった。

問 238 (衛生)

この患者の遺伝子検査に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 RAS 遺伝子はがん抑制遺伝子である。
- 2 RAS 遺伝子に①の変異があると、細胞増殖シグナルの不活性化が抑制される。
- 3 RAS 遺伝子産物はアポトーシスを誘導する。
- 4 UGT1A1 遺伝子に②の変異があると、UGT1A1 遺伝子産物の量が少なくなる。
- 5 UGT1A1 遺伝子に②の変異があると、イリノテカンが加水分解されにくくなる。

問 239 (実務)

遺伝子検査を実施する理由について、患者から質問があり、薬剤師が回答することになった。この遺伝子検査に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 RAS 遺伝子に①の変異があると、セツキシマブの有効性が低下する。
- 2 RAS 遺伝子に①の変異があると、5-FU の有効性が向上する。
- 3 RAS 遺伝子に①の変異があると、イリノテカンによる下痢が起りやすくなる。
- 4 UGT1A1 遺伝子に②の変異があると、5-FU による骨髄抑制が起りやすくなる。
- 5 UGT1A1 遺伝子に②の変異があると、イリノテカンによる骨髄抑制が起りやすくなる。